esplanade

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館

esplanade［Hスプラナード］
OCTOBER 2025 | NO.221

esplanade

［エスプラナード］

OCTOBER 2025 | NO.221

contents

03　所蔵品紹介

04　なぜ日本人画家は「南国」を描いたのか？

06　「北」へのまなざし／異国へのまなざし

07　この秋、菊畑茂久馬の世界へ

08　前川國男と福岡市美術館

09　展示室で作品を見ながら
　　新しく始まった音声ガイドを聞いてみよう！

10　美術館スケジュール（10〜12月）

田中千智《生きている壁画》2025年完成版

《生きている壁画》完結、次の風景を描くのは…

近現代美術室の壁面にある田中千智さんの《生きている壁画》は、3段階の加筆を経て完成しました。はじめは静かな森だった画面は、炎に隔たれたふたつの世界へと変化。争いや災いが絶えない社会においても、共感や想像力を持って生きる姿勢が込められています。この作品は12月末をもって公開終了となります。ぜひお見逃しなく。

そして、2026年1月からは、同じ場所で浦川大志さんによる公開制作が企画展と同時にスタートします。新たに刻まれる風景にもどうぞご期待ください。

所蔵品紹介

重要文化財 十二神将（じゅうにしんしょう） 未神（みしん）

南北朝時代 14世紀
木造 寄木造
像高 104.2cm
東光院仏教美術資料

十二神将とは、薬師如来とその信仰者を守護するガードマンのこと。甲冑で身を固め、武器を手にした勇ましい姿でありながら、頭上には可愛らしい動物の標示をいただくのが特徴です。頭にヒツジをあらわす本像は十二神将のうちの未神で、もとは住吉神社（福岡市・博多区）の神宮寺である円福寺に伝わったのが、明治時代に東光院（福岡市・博多区）へ移されたと考えられています。片膝を緩めた立ち姿からはリラックスした印象も受けますが、目をすがめて矢に視線を落とす様子は、来るべき戦いに備えて静かに闘志を燃やしているようでもあります。

仏教彫刻において、作り手（仏師）が自身の創意を発揮できる場面はそれほど多くないのですが、経典などで姿形を規定されることが少ない神将の像は比較的自由度が高い例です。この十二神将を制作するにあたってのテーマは、いかに十二躯の個性を表現し分けるか、ということにあったと思います。現代の彫刻と比べるとはるかに工夫の余地が制限されている中にあって、髪型や表情、姿勢や甲冑のデザインなどで何とか変化をつけようと心を砕いたであろうことが十二躯を見比べることで実感できるのではないでしょうか。

――学芸員（古美術係）宮田太樹

なぜ日本人画家は「南国」を描いたのか？

明治以降、日本の画家たちはしばしば「南」へと旅をしました。自分だけの新しい主題と表現を探して、海を渡った日本人画家たちの旅路を、作品を通してたどる展覧会を開催します。

話を聞いた人
学芸員（近現代美術係長）
ラワンチャイクン寿子

編集部　今回の展示では、日本の画家たちが南の地に向かい、南を題材として描いた作品が並んでいます。そもそも、なぜ彼らは「南」へ旅したのでしょう？

ラワンチャイクン　明治以降、日本は南へ進出し植民地化を進めます。

台湾や南洋諸島や東南アジアは「資源豊かな土地」と捉えられ、移住したり旅行した日本人も多く、関心をひいた場所でした。画家たちも、そうした時代の流れの中で現地に赴いていきました。

編集部　南の地域に取材した絵にはどんな特徴があると言えますか？

ラワンチャイクン　「新しい画題を発見した！」という、画家たちの目のよろこびを感じます。きらめく陽光、紺碧の海や空、緑濃い森、日本とは異なる風俗…。どれも初めて見るものだったでしょう。現地の自然や人々に対する純粋な感動をもって、多くの画家は"理想的な楽園"として描きました。一方で画家たちの視線にはどこか「遅れた他者」を眺めるような視点も同時に存在しています。現代から振り返れば、とてもアンビバレンツな作品群ですよね。

編集部　風景や自然が主役になる一方で、戦争という影も見えますね。

ラワンチャイクン　日本軍の派遣で取材に行った画家たちもいましたが、彼らが描いたのは必ずしも戦闘場面だけではありませんでした。のどかな異国の風景や、熱帯雨林の花鳥に興味をよせた画家も多く植物の構造に心を奪われて、その魅力をデザイン化して描いた作品なんかも残っています。

編集部　画家たちは、ただ記録するのではなく、自分の美術的なテーマを現地で見つけていったということでしょうか？

ラワンチャイクン　例えば、福田豊四郎の《叢林兵（そうりんへい）》には、兵士が描かれてはいるものの、わたしたちの目を奪うのは、むしろ南方の植物の形態や色彩です。それは自然の中に潜む抽象性やリズムを捉えようとする挑戦でもありました。

編集部　「南国＝楽園」という幻想が裏切られる瞬間を描いた作品もありますね。

ラワンチャイクン　まさに赤松俊子（丸木俊）の《アンガウル島へ向かう》なんかは象徴的です。ゴーギャンに憧れて向かったはずの南洋諸島で、疲弊した鉱山労働者たちの乗る船に乗りあわせます。彼女はその現実を描きました。そして、赤松の現実を見る姿勢と表現は、戦後の《原爆の図》につながっていきます。

編集部　その意味で、南への旅は画家自身の「内面への旅」でもあったのですね。

ラワンチャイクン　そうなんです。

またインドへの旅は、他の南の諸地域とは違った意味合いがありました。仏教美術の源でもあり、敬意をもって向き合った画家も多いんですよ。

今回展示する作品群には、「南国」というテーマがはらむ光と影、時代の要請と個人の感情など、様々な要素が交錯しています。近代日本の美術を「南」という視点から問い直す、初めての展覧会です。ぜひお楽しみください。

石崎光瑤（こうよう）《熱国妍春（ねっこくけんしゅん）》

1918年 京都国立近代美術館

インドでの取材をもとに描かれた大作。植物が画面いっぱいに密生し、南国ならではの熱気と湿度を、日本画の繊細な技法で表現している。ダイナミックな構図から、画家の躍動する心の動きが感じられる。

横山大観《白衣観音》

1908年
東京国立近代美術館

インド文化に魅了された大観が描いた観音像は、まるでサリーをまとうインド人女性のように見える。実際にインドを訪問した画家たちは、それまでの厳かな仏画を近代的に刷新していく。

赤松俊子《アンガウル島へ向かう》

1941年 丸木ひさ子氏蔵

南洋諸島へ渡った赤松が、船内で見た鉱山労働者たちを描く。疲れ果てて横たわる人々の姿に、「南国」への幻想と現実のギャップが浮かび上がる。楽園の裏側を見つめた作品。

福田豊四郎《叢林兵（そうりんへい）》

1943年 秋田県立近代美術館

ヤシやシダ、クワズイモの葉の形態をデザイン化した表現が目を引く。身構える日本兵の姿はあるが、主役はむしろジャングルの植物たちである。

和田三造《南洋風景》

1919年 公益財団法人北野美術館

南洋を「天と直接話のできる」土地と考えていた和田。ビンロウ樹が天をつくように垂直に伸びる構図が印象的。空と大地が交信するようなスケール感が感じられる。

展覧会情報

特別展
珠玉の近代絵画―「南国」を描く。

●10月11日（土）―11月24日（月・休）　●2階 特別展示室
●観覧料：一般1500円（1400円）、高大生1000円（900円）、中学生以下無料
※（ ）内は前売り、20名以上の団体料金

特別展「珠玉の近代絵画―「南国」を描く。」関連企画展示

人びとが異文化に向けたまなざしに焦点をあてた
二つのコレクション展をご紹介します。

近現代美術 コレクション展

「北」へのまなざし

会期：開催中～12月21日(日)
会場：2階 近現代美術室 A

矢崎千代二《建国忠霊廟》1941年 福岡アジア美術館

日本が、1910年に大韓帝国（朝鮮半島）を併合し、1932年に満洲（現在の中国東北部）を支配するようになると、多くの日本人がこれらの地域に移住したり旅行したりするようになります。

例えば冨田溪仙や吉田博は、写生旅行で中国や朝鮮半島を訪れています。一方、甲斐巳八郎や矢崎千代二のように、満洲に定住することを覚悟した画家もいました。本展では、彼ら、日本とは異なる北の風景、風俗、人情に興味もった作家たちが、詳細な観察をもとに写実的に描いた作品や、旅行の経験をヒントに想像を交えて制作した作品を、福岡アジア美術館と当館の所蔵品により紹介いたします。

日本が北方へ覇権を広げた時代の中、作家たちが描き出した「北」には帝国主義の眼差しも感じられますが、同時に異文化の魅力に素直に惹かれた様子も見てとることができます。

―― 学芸員（近現代美術係長）ラワンチャイクン寿子

古美術 コレクション展

異国へのまなざし

会期：10月28日(火)～1月18日(日)
会場：1階 松永記念館室

古来、外交や貿易を通してもたらされる異国の品々は、人びとにとって憧れの的であり、茶の湯の世界では渡り道具と呼ばれ珍重されました。当館が所蔵する《莨葉文水指（たばこはもんみずさし）》も渡り道具の一例です。器の上下がくびれたシルエットと、白地に青や黄を配した明るく鮮やかな色合いが特徴で、オランダのデルフトで作られたと考えられています。

江戸時代に出版された骨董の百科事典である『万宝全書』には多くの渡り道具が記されており、先ほど例にあげたオランダのほかにも、中国、朝鮮半島、東南アジアなど様々な国の道具を見出すことができます。

本展では、こうした異国からもたらされた茶道具をはじめとする古美術作品を通して、人びとが異国へ向けたまなざしをご紹介します。

―― 学芸員（古美術係）宮田太樹

《莨葉文水指（たばこはもんみずさし）》オランダ 17世紀

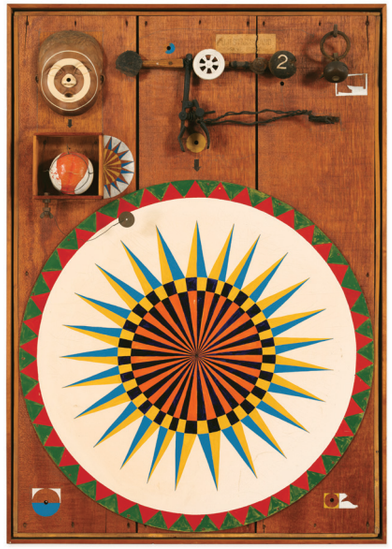
この秋、菊畑茂久馬の世界へ

福岡を拠点として「絵とは、絵描きとは？」を問い続けた画家、菊畑茂久馬の貴重な作品を一堂にご覧いただけます。

展覧会情報

菊畑茂久馬展

◇会期：開催中～11月3日(月・祝)
◇会場：2階 近現代美術室 B



1.《ルーレット（ターゲット）》1964年 福岡県立美術館

2.《天動説　五》1983年

菊畑茂久馬とは？

菊畑茂久馬（1935～2020）は、長崎市に生まれ、福岡市で活動した芸術家です。福岡で結成された前衛美術グループ「九州派」での活動で頭角を現し、注目を集めていましたが、1960年代中盤から美術界と距離を置き、炭鉱画家・山本作兵衛や戦争記録画についての研究を行うなど、絵画とは何か、画家とは何か考える期間を過ごしました。その後《天動説》シリーズを始めとした大作の絵画を発表し、生涯制作を続けました。2020年に亡くなり、今年は没後5年となります。

展覧会の注目ポイント

1. 発表当時海外からも注目された《ルーレット》シリーズが並びます。

今回、福岡県立美術館から《ルーレット（ターゲット）》をお借りし、当館の《ルーレット》《ルーレットNo.1》の2点と並べて展示します。菊畑が1963年～1964年に制作した《ルーレット》シリーズは、木材に日用品を貼り付け、ルーレットを思わせる円環を描いた作品群です。菊畑は、この一連の作品で海外からも注目を集めました。

2. 画業後半の代表作《天動説》と、そこに至るまでに制作した版画が見られます。

菊畑は、美術界と距離を置き思索を深めていた期間にオブジェを制作していました。さらにそのオブジェを撮影した写真を版画にしています。それは、「もの」を平面にどのように表現するかという試みの一環でした。また、《天動説　五》には棒状の物体が埋め込まれ、「ものと平面のせめぎあい」を見て取ることができます。

今回の「菊畑茂久馬展」は、《天動説　五》などの大作絵画や版画を展示し、菊畑茂久馬の世界を紹介するとともに、《ルーレット》シリーズが並ぶ貴重な機会となります。ぜひ足をお運びください。

―― 学芸員（近現代美術係）花田珠可子

生誕120年 前川國男と福岡市美術館

当館の設計者は、日本を代表するモダニズム建築の巨匠、前川國男（1905～1986）。日本人で初めてル・コルビュジエに学び、当館以外にも〈東京都美術館〉〈東京文化会館〉〈熊本県立美術館〉など、全国で美術館や音楽ホールを手掛けた公共建築の名手です。今回は、前川國男の生誕120年を記念して、改めて彼の建築の特徴がよく表れた場所を紹介します。

かまぼこ天井

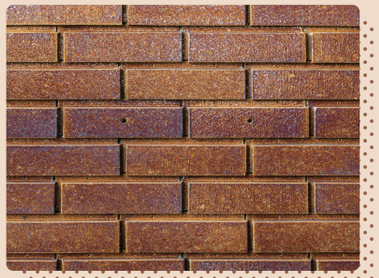
前川建築によく見られるのが、アーチ状のひさし。どこか日本的なおもむきで、建築に独特のリズムを与えています。

エスプラナード

「広場」の意味を持ち、ゆるやかな階段で1階から2階、そして館内へ来館者を導きます。

はつりコンクリート

特殊な工具でたたいて削る「はつり加工」を施した表面がざらざらのコンクリート。無機質な近代建築にぬくもりを与えます。



打ち込みタイル

磁器質タイルで覆われた外観は、前川建築の大きな特徴。愛知県で焼かれた特注品で、釉薬の美しさが光ります。

なめらかな手すり

木製ブロックを削り出して作られた美しい手すり。天井のアーチと呼応した「曲線」が効果的に使われています。

家具

家具類はすべて前川國男の監修を受けた天童木工製の特注品。機能や配置場所に合わせてたくさんの種類が制作されました。

前川建築設計事務所 橋本功所長と当館中山総館長による対談を開催!

前川國男 生誕120年記念対談 福岡市美術館に息づく前川イズム

日時：11月16日（日）13:30～15:00（開場13:00）
会場：1階 ミュージアムホール
料金：無料
申込締切：10月29日（水）

詳細・申し込みはこちら

新しく始まった

展示室で作品を見ながら 音声ガイドを聞いてみよう!

6月に展示替えをし、大きく展示の入れ替わった2階近現代美術室の「コレクションハイライト」について前号でご紹介をしましたが、新しくなったのは展示作品だけではありません！同じタイミングで、「音声ガイド」の試みも新たにスタートしました。今回は、展示室で作品を見ながら聞くことのできる音声ガイドについてお知らせします。

音声ガイドが聞けるのは1階と2階のコレクション展示室！

展示室A・コレクションハイライト1「作品と語ろう」の様子

音声ガイドが導入されたのは、コレクション展を行っている1階古美術展示室と、2階近現代美術室A、Cの部屋です。例えば、展示室Aの部屋では、「作品と語ろう」という展示テーマに沿って、福岡市美術館のコレクションを代表する作品たちを組み合わせ、互いが響き合うように配置しています。作品を一点ずつ見るだけではなく、作品同士を比べたり、全体を見渡したり、作品と対話しながら自由に鑑賞してもらえるよう、空間には鑑賞のヒントとなる工夫をこらしていて、音声ガイドもそうした工夫のひとつ。ガイドを聞きながらぜひ作品との対話を深めてみてください。展示室Cや古美術展示室でも、様々な内容を用意しています。

音声ガイドの内容は、耳で楽しむ「おもしろキャプション」と、作品や展示をめぐる対話。

今回、音声で楽しむことができるようになったのは、耳で楽しむ「おもしろキャプション」と、展示室で実際の作品を前にして新たに収録した対話です。当館では、これまでも、学芸員だけが知っている特別なエピソードや裏話、あるいは美術館職員が選び、私はこう見る!という超・主観的視点で作品を紹介する「おもしろキャプション」を設置してきました。今回はその中から17点の作品をピックアップし、音で楽しめるガイドとして用意しました。また新たに録り下ろした対話部分では、当館の館長、学芸員が高島市長と展示室を巡りながら、様々な作品の見方についてお話をしています。どんな内容になっているかは、ぜひ展示室で実際の音声ガイドで確認いただければと思います。

会場に入ると、音声ガイドについての案内があります。

音声ガイドの利用方法

音声ガイドを聞くことのできるスポットには、作品キャプションなどの下に二次元バーコードの四角いマークが入っています。このコードをスマートフォンのカメラをかざして読み取ると、音声ガイドを聞くことができます。お聞きいただく際には、スマートフォンに連動したイヤフォンを使って再生してください。

※音声ガイドのご利用にはインターネットにつながるご自身のスマートフォンと、音声を聞くためのイヤフォンが必要です。

文字のキャプションや展示解説には様々な情報がギュっと凝縮されていて、作品鑑賞の大きな助けになりますよね。ただ、文字情報が目に入ると逐一読まなければいけない気分になって、作品を見るよりキャプションを読む時間が長くなり、すっかり疲れ果ててしまう、というのも「美術館あるある」ではないでしょうか。そんな時には、まずは作品をじっくりみながら、気楽な気持ちで「おもしろキャプション」の音声ガイドを聞いてみるのもいいかもしれません。

学芸員（教育普及係長）髙田瑠美

美術館スケジュール

●休館日　●開館時間延長日（～午後8:00）7月～10月の金・土は夜間開館!

LECTURE

つきなみ講座

OCTOBER-DECEMBER 2025

毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順（30分前開場） ※定員等は変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

10月 「珠玉の近代絵画―「南国」を描く。」展の見どころ紹介 ①

近代には、多くの作家が台湾や東南アジア、南洋諸島、インドへと向かい、そこでの取材をもとに様々な作品を制作しました。その諸相を紹介する展覧会の見どころをお話します。

日時：10月18日（土）15:00～16:00
会場：レクチャールーム（定員54名）
講師：ラワンチャイクン寿子（近現代美術係長）

福田豊四郎《蕗林兵》1943年
秋田県立近代美術館

11月 「珠玉の近代絵画―「南国」を描く。」展の見どころ紹介 ②

近代には、多くの作家が台湾や東南アジア、南洋諸島、インドへと向かい、そこでの取材をもとに様々な作品を制作しました。その諸相を紹介する展覧会の見どころをお話します。

日時：11月8日（土）11:00～12:00
会場：レクチャールーム（定員54名）
講師：花田珠可子（学芸員・近現代美術係）

今村紫紅《水汲む女・牛飼う男》1914年
平塚市美術館

12月 クーリエのお仕事 －サルバドール・ダリ《ポルト・リガトの聖母》の海外貸出－

現在、《ポルト・リガトの聖母》をスペインのダリ劇場美術館に展覧会出品のため貸し出しています。本事例を通し、作品が海外へ渡る際に同行するクーリエという仕事についてお話しします。

日時：12月20日（土）15:00～16:00
会場：レクチャールーム（定員54名）
講師：渡抜由季（学芸員・近現代美術係）

サルバドール・ダリ
《ポルト・リガトの聖母》1950年

※展覧会およびイベントに変更が生じる場合があります。来館前にホームページで最新情報をご確認ください。

ギャラリー A-F 2階

9月30日（火）～10月5日（日）
- Kinji. が爆発 3（ギャラリーA）
- 景柳書道学会作品展（ギャラリーB,C,D）
- ミクスドメディアのなかまたち展（ギャラリーE）
- リベラル展（ギャラリーF）

10月7日（火）～10月13日（月）
- 高齢者作品展（ギャラリーA）
- 第一回ももちカルチャーセンター美術展（ギャラリーB,C,D）
- 異種二人展+α（ギャラリーE）
- 突展 2025 福岡教育大学美術科58年度生中心OB有志展（ギャラリーF）

10月15日（水）～10月19日（日）
- 第50回 玄霜会日本画展（ギャラリーA）
- 第28回石耀展（ギャラリーB,C,D）
- Lr'm（リリム）写真展（ギャラリーE）
- 第11回示現会福岡支部公募展 及び 第13回示現会福岡支部作品展（ギャラリーF）

10月21日（火）～10月26日（日）
- 福岡市美術連盟創立30周年記念展（ギャラリーA,B,C,D,E,F）

10月28日（火）～11月3日（月）
- 角間貴生展『幻想賢治ワールド』（ギャラリーA）
- 企画展「一字の書」by Kiun（ギャラリーB,C）
- 第44回福岡きりえ展（ギャラリーD）
- 寺本勇哉 写真展「COMPLETELYINCOMPLETE」（ギャラリーE）
- 第8回自然と彫刻が好きな人たち彫刻展（ギャラリーF）

11月5日（水）～11月9日（日）
- 第23回プリマヴェーラの会作品展（ギャラリーA）
- 第46回中央区市民文化祭美術作品展（ギャラリーB,C,D,E,F）

11月11日（火）～11月16日（日）
- 岡田豊子 個展（ギャラリーA）
- 第54回福岡市高齢者美術展（ギャラリーB,C,D）
- 日本水彩福南支部展（ギャラリーE）
- 透明な空気感に魅せられて（ギャラリーF）

11月18日（火）～11月24日（月）
- 第17回福岡市障がい児・者美術展 福岡コアサイドアート美術展2025（ギャラリーA,B,C,D）
- 第11回日洋会福岡支部展（ギャラリーE）
- チャーチル会博多 絵画展（ギャラリーF）

11月26日（水）～11月30日（日）
- 第45回南区美術展（ギャラリーA,B,C,D）
- シニアネット 第16回文化祭（ギャラリーE）
- 「らりるれRO展」（ギャラリーF）

12月2日（火）～12月7日（日）
- 第5回日本の城絵暦原画展（ギャラリーA）
- 53回九州行動展（ギャラリーB,C,D,F）
- 窪田正博展（ギャラリーE）

12月9日（火）～12月14日（日）
- 西区市民美術展（ギャラリーA,B,C,D,E）
- 第26回ふくおか植物画会展～ボタニカルアートの魅力～（ギャラリーF）

12月16日（火）～12月21日（日）
- 第41回城南区市民アート展（ギャラリーA,B,C,D,E）
- 九州産業大学 映像メディア専攻 映像展覧会（ギャラリーF）

12月23日（火）～12月27日（土）
- 謙慎書道会九州沖縄展（ギャラリーA,B,C,D）
- 風景画に魅せられて（ギャラリーE）
- 第22回姚明中国水墨画書道研究会展（ギャラリーF）

大王製紙は、環境に配慮した製品を通して、
地球環境に貢献し続けます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

大王製紙株式会社

東京都千代田区富士見二丁目10番2号
https://www.daio-paper.co.jp/

福岡市美術館ミュージアムイベント協力企業・団体

GRANDE MAISON SEKISUI HOUSE　大王製紙株式会社　QTnet　福岡銀行　NIPPON EXPRESS

ウエスト　人につくす、街につくす。セイワ世研　AZUSA SEKKEI　九州電力 ずっと先まで、明るくしたい。　草苑

ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに!もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ（http://www.ffac.or.jp/wa/）またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

RESTAURANT
レストラン

昨年も販売しご好評いただいた和食のお膳と
サツマイモや栗を使用した特製の和スイーツ

紅葉御膳
3,300円（税込）

NEW ミュージアムパフェ
1,540円（税込）

販売期間：9月9日（火）～10月31日（金）

福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館
ウェブサイト
www.fukuoka-art-museum.jp

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6　TEL：092-714-6051（代表）　FAX：092-714-6071
【開館時間】 9:30～17:30（7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00） ※入館は閉館の30分前まで。
【休館日】 月曜日、年末年始（12月28日～1月4日 ※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日）

esplanade OCTOBER 2025 | NO.221

福岡市美術館　季刊誌エスプラナード221号　発行日：2025年10月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社（西日本新聞社）【編集】浅野佳子（nico edit）【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクツ
【発行】福岡市美術館（〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL:092-714-6051 FAX:092-714-6071 https://www.fukuoka-art-museum.jp）